

## 第6回 練馬区商工業振興懇談会議事概要

日時：平成22年3月15日(月)午後15時10分～午後17時00分

場所：練馬区役所本庁舎 19階 1906会議室

### 《議事次第》

- 1 開会
- 2 議事  
提言書(素案)の確認  
資料1 練馬区商工業振興懇談会提言書(素案)
- 3 その他  
第5回懇談会会議録(案)について  
資料2 第5回 練馬区商工業振興懇談会議事概要(案)
- 4 閉会

### 《出席者(五十音順)》

石黒竜、井戸勤、岩橋栄子、大島いずみ、黒岩健一郎、高橋徳行、長井詳典、本田八十夫、  
元屋恵子、横山正二

### 《傍聴者》

なし

## 1 開会

座長

- ・ 定刻になったので第6回練馬区商工業振興懇談会を始める。委員の出欠について事務局より報告願う。

事務局

- ・ 篠委員から欠席連絡有、現在出席者10名である。

## 2 議事 練馬区商工業振興懇談会提言書（素案）の確認

商工業振興計画策定支援業者

資料1「練馬区商工業振興懇談会提言書」の内容、構成について前回から修正した点を説明

座長

- ・ 修正内容について補足する。前回と大きく変わったのが、2ページに構成図を挿入したこと、そして明るい話から始めるために、現状と課題に関しては「豊富な産業資源」から始めたことの2点である。また、「将来的方向性」を受けた5本の柱のうち、「まちの魅力を活かした産業活動」、「みどり、環境と調和し、育む産業活動」、「区民とともに活性化する産業活動」の3本は明るい方向から出てきた柱と捉えて取組につなげている。

また、11～12ページにかけて(3)「変化に対応した産業活動」と(4)「にぎわいをもたらすような産業活動」について、事務局の意図としては、(3)は練馬区全体の産業構造の変化に対応する取組について、そして(4)は企業一つ一つに対する働きかけとしてまとめた。

全体として、前回出された練馬区らしさを出したいという意見に合致するようにまとめている。

委員

- ・ 2ページにある構成図の一番下の段において、事業者の下に自助努力という文言があるが、行政にも自助努力が求められる時代になっているので、練馬区の下にも自助努力という文言が必要なのではないか。区にもっとリーダーシップを取ってもらいたい。

座長

- ・ 確かに何か入れたほうが良いと思う。委員の意図するところは、自助努力ではなく、

リーダーシップという意味合いなのではないか。

#### 委員

- ・ やはり、自助努力というのは事業者のすることではないか。行政にはむしろ情報提供や仕組みづくりを求めたい。

#### 委員

- ・ 区がリーダーシップを取っても、産業の主体になる事業者にやる気がなければうまくいかないと思う。私は本懇談会で、今まで薄々気づいていた区の状況や課題を皆で議論することによって、非常に明確にすることができたと感じている。このような場を設けることは、事業者や区民だけの力では出来なかったと思うので、区のコーディネート力は素晴らしいと今回実感した。そのようなことが区の役割ではないか。

#### 座長

- ・ コーディネート力ということだろうか。

#### 事務局

- ・ 2 ページの同じ部分で、練馬区が4者の輪から一步引いている点が気になっていた。区民と共に区もプレーヤーの一人として関わっていく必要があると思うので、4者が並列的に関わるように、図形の小さな輪は取ってしまっはどうか。そして区の下に区の役割を現す言葉を入れてもらいたい。

#### 座長

- ・ 区の役割を表すには、どのような言葉が良いだろうか。「ファシリテート」、「コーディネート」、「リーダーシップ」等であろうか。リーダーシップは少し強いかもしれない。「方向性」では他の手足を縛るようになる。「ビジョン」だろうか。入れる言葉は後で事務局で精査するとして、大きな輪の中で4者が並列的に並ぶという意見には皆、異論がないようだ。

#### 委員

- ・ 行政の関与の度合いは状況によって変わってくるものだと思う。例えば、病人に対する治療のように、癌の手術が必要と判断されるようなときには区が積極的に関わる必要があるだろうし、単に情報提供で済ませられる場合もあるだろう。2 ページの図に区の役割としても言葉を盛り込むことも大事であるが、区の役割が変化するものである以上、ぴったりな言葉を一言で表現するのは困難であろう。それよりも、14 ページの(4)「区の責務」の部分に言葉を足して、もっと内容を豊かにするほうが良いのではないか。

#### 座長

- ・ 今のご意見はもっともだが、基本構想のように、区政全体に関わる話と、商工業振興のような、区政の一部の話では区の役割にも温度差があるので、区の役割は区政全体と比較すれば、やや消極的になるものであると思う。

#### 事務局

- ・ 区の役割や姿勢、方向性については、32年ぶりに基本構想を作り直したことが一つの象徴となっている。ポイントは、「共に築き未来をつなぐ」というフレーズを入れたことにあると思う。ただ単に住宅都市であるだけではいけないという思いが区の総意である。これまでは農業地や工業地が住宅地に変化していくことは当然なので仕方ない、近隣の大商業地に消費が流れることも仕方ないとされてきたが、これからは現状の中でできることを洗い出し、努力して行く、という方策を打ち出している。具体的には、みどりの保全、アニメの積極活用と人材の育成などであるが、これらの思いを商工業振興計画の中にも反映させていく必要があると思っている。

#### 委員

- ・ 区の役割を表す文言は「施策の制定」が良いのではないか。

#### 委員

- ・ 今後ますます経済状態は悪くなると思うし、移民を受け入れなければならないほどの少子化が進行すると思う。そういう意味では行政も危機感を持って自助努力しなければならないだろう。

#### 座長

- ・ 区の責務については、もう少し、区が積極的に発言していく姿勢を明確にするように加筆する、ということで良いだろうか。

#### 委員

- ・ 区が民間の商業活動に対して仕組みづくりや支援をすることには無理があるのではないか。やはりこれは主体となる産業経済団体が担っていくのだと思う。区にはむしろ、低利での融資など、金銭面での役割を担ってもらいたい。その方が、具体的で分かり易いのではないか。
- ・ 提言は誰が誰に提言するものなのか。

#### 事務局

- ・ 第一回懇談会の冒頭で説明させていただいたと思うが、この懇談会は区長の諮問の

ために招集され、ここで区民の皆さんの意見をまとめ、区長に対する意見として提出する、という位置づけである。今後は行政側がこの提言で出されたご意見を参考に、実際の商工業振興計画を策定したうえで、予算を立て、執行することになる。

#### 委員

- ・ 区民はこの提言をあまり読んでいないのではないかと思う。区民に周知させることも課題なのではないか。
- ・ 商工業全体や商店街全体を支援して活性化することは現実問題として困難だと思うので、弱いところは諦めて、強いところを伸ばしていく施策にする必要があるのではないか。住むなら練馬区が一番良い、というような区にしなければならないと思う。

#### 事務局

- ・ この提言は、これを受けた行政計画を作成する際に参考とさせてもらうためのものになる。そして、その計画の素案についてパブリックコメントを募集する予定である。また事業者の方に説明する場や会を設け、最終的に区のホームページではいつでも見ることができるように掲載する予定としており、このような順序を追って、区民の方に知ってもらうよう努めていく。
- ・ また、頑張る企業を伸ばすべきという意見については、14～15 ページにかけての意見のところに、「選択と集中」といったキーワードとともに反映させていただいている。

#### 委員

- ・ 提言の中には具体策がまだ見えないが、最終的には我々の意見は具体的な施策に反映されるのか。

#### 事務局

- ・ 出来る限り反映させたい。今後、提言を参考にした行政計画を策定し、4年間で実行する具体的施策に対し、予算を要求し、執行まで行っていく。

#### 委員

- ・ 今後4年間で実施する計画を策定し、予算も取る、というようなことも区の責務のところに盛り込んで書くと良いのかもしれない。また、委員から出された意見で、「雰囲気作りを行うこと」なども、区の責務に盛り込んでも良いのではないだろうか。
- ・ 学生を指導するとき、頑張る学生しか相手にしないという対応ではやる気を起させることができないし、かといってあまり丁寧にも何でも面倒を見ると、一人で努力することを怠るようになる。最初に意欲を盛り上げる雰囲気を区が作り、民間事業所だけでうまく回っていくようになったらサポートに回ることが良いのではないか。

#### 座長

- ・ 独自に芽生えた小さな良い動きを行政がサポートして大きな動きに変えていき、その大きな動きが今まで参加していなかった人を巻き込んでいくという行政のあり方が求められるのではないかと。いずれにしても、区がやや引いている姿勢なので、もう少し積極性のある言い方がよいかもしれない。

#### 委員

- ・ 区が引きすぎている印象はないが、区としては、区役所の中の情報を集めた上で、産業経済団体、区民や事業者が三者三様に努力することが大事なので、それを提言に盛り込んでもらいたい。

#### 座長

- ・ 言い方は色々であるが、皆が求めているものや考えているものは同じ方向にあるのではないかと思う。

#### 委員

- ・ 提言書には各企業がやるべきことが色々書かれているが、アニメ等の強いところを伸ばすことを重視してもらいたい。また、予算作りもしていかなければならない。予算を出しやすい計画にしなければならぬだろう。相対的によくまとまっている提言になっていると思う。
- ・ この提言は議会との関係はどうなっているのか。

#### 事務局

- ・ 4月の中ごろに所管の常任委員会に本提言について報告する予定であり、その際に質問を受ける可能性がある。

#### 事務局

- ・ 商工業振興計画は4年間という限られた期間で実施する計画であり、その制限の中で予算や実効性を勘案するので、計画にする際には本提言全てを反映させられるわけではない。計画としてまとまりを持たせるためには、できることを絞り込んで、具体的取組内容を精査し、どうしても落とさなければならぬ部分も出てくると思う。しかし、我々が計画を作成する際に念頭においておかなければならないような視点としては、既に必要十分な意見が出されていると感じている。

#### 座長

- ・ イメージとしてはサーチライトのようなもので、計画で作成する施策の進むべき方向を照らして、指し示すようなものが提言であると思っていただければと思う。

#### 委員

- ・ 2ページの構成図に題がないので、題を付けた方が良いのではないか。

#### 座長

- ・ 「提言の構成」になるだろうか、変わったものにはならないと思うが、事務局で何か考えてつけたい。

#### 委員

- ・ 4ページの「多様な人的資源」の中に、「区民が商店街などの地域活動に積極的に参加する」という表現があるが、商店街の行う地域活動に参加するのか、商店街の活動に対して購買という行動で参加するのかで意味が変わってくるが、どう読んでよいかわからない。
- ・ 5ページの「工業・ものづくりを取巻く変化」の「コンテンツの生産」はサービス業ではないのか。ものづくりとして工業に含めることに違和感がある。また、工業が減少していることと、コンテンツの話がどう関わってくるのが理解できない。
- ・ 同ページの「環境問題への意識の高まり」のところに、練馬で提唱している地産地消やフードマイレージについての文言を入れてはどうか。

#### 事務局

- ・ 「区民が商店街などの地域活動に積極的に参加する」については、この文章を通常の意味で読めば、商店街の実施する地域活動に共に参加するとしか読めないであろう。商店街で購入することを地域参加と捉えろといった話は出てこない。それを含めるか、という議論をこの場でする余地はあるかもしれないが。
- ・ コンテンツはサービス産業のように捉えられがちであるが、工業統計分類では、工業に入っている。
- ・ 地産地消については、3ページの「都市型農業」のほうに含意している。

#### 委員

- ・ 情報というのは、産業として非常に広範囲に及んでいる。ソフト面だけでなく、車関係で言えば、ハイテク、センサー、情報や特許、そういったものになってきている。これからの産業は水や煙を出すような産業ではなく、マンションのような中でものづくりが行われるようになっていく。

#### 座長

- ・ これまでの産業は原価費が高かったが、これからの産業が開発費に比重が移ってきているとも言える。委員の発言は、生産という言葉にひっかかっているのだろうか。

#### 事務局

- ・ 昔は旋盤を使って金属を加工して製品を作っていたが、今はパソコンを使ってデータを加工して製品を作っていくという構造に変わっている。しかし、何かを加工して何らかの製品を作成するというものづくりの本質は変わっていない。

#### 委員

- ・ 私のビルの中で任天堂の学習ソフトを作成している会社があるが、物凄く景気が良い。

#### 委員

- ・ 練馬区ではみどり30を掲げてCO2の削減に貢献していることも記載してほしい。
- ・ アニメを大きく取り上げて行くに当たり、知的財産権の保護も取り上げてもらいたい。

#### 座長

- ・ 先程のコンテンツの話題に戻るが、4ページから始まる(3)のアとイの話題の内容が重なる点が分かりづらいのかもしれない。個々の企業の中で情報化のウエートが高まっているという現状と、社会全体として産業がコンテンツ化している点やサービス業の比重が高まっている点に分けて明確にすると良いのではないか。

#### 委員

- ・ 6ページのアニメの話題については、もっと国際的な視点を盛り込んで記述してもらいたい。アニメの拠点をつくることも明言してもらいたい。国単位で言うと、農業は現実には崩壊しているが、後20年もしたら農業従事者は半分になる。この危機感を持っているのだろうか。

#### 座長

- ・ アニメについての詳細な事は、別の計画で練られているので、ここではあまりアニメに入り込んで記述することは必要ないかと思う。

#### 元屋委員

- ・ テレビで見たのだが、アニメを商品とコラボレートさせて販売することなども効果

的なようである。付加価値が付いて練馬ブランドが出来る。このようなことは練馬で取り組まれているのか。

座長

- ・ そういった具体的内容のことは個々の事業者の取組になるので、提言や計画で言う内容でもない。区として支援などはしているか。

事務局

- ・ 協議会を設けているので、その協議会がコーディネーター役になってくれればと思う。キャラクター使用については、ライセンスの管理が非常に厳しくなっているので、その折り合いをつけていく必要もあるだろう。

事務局

- ・ ライセンスの問題に加えて、キャラクターはそれを取巻く世界観を育て、周知して初めて魅力のある商品として成り立つ。急に見も知らないキャラクターが出て、売れる商品になるわけではない。今後、練馬区でも育てていかなければならないだろう。

### 3 その他

事務局

- ・ 資料2については前回の懇談会の議事録なので、委員の方は目を通し、各自の発言内容などに意見のある場合は個別に事務局に修正等の申し出をしてもらいたい。

事務局

- ・ 本日いただいたご意見をできるだけ反映させ、本提言書を修正し、年度内に区長に提言を提出する予定にしている。また、それに基づき、8月頃までに行政計画を作成していく。

本日まで半年間、貴重な時間を割いてご意見を頂戴しまして、有難うございました。

### 4 閉会

事務局挨拶

以上